

**平成30年度 全国学力・学習状況調査
教科に関する調査結果及び考察について**

保護者の皆様へ

白河市立表郷中学校長

平成30年4月17日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は3年生で、国語と数学と理科の3教科を実施しました。

国語と数学の2教科については、主に知識に関する「A問題」と、主に知識を活用する力に関する「B問題」に分けて実施しました。理科は、主として知識に関する問題と、主として活用に関する問題をあわせて実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、生徒の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であること、また、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率比較】

教科	全国平均 正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
国語A	76.1%					○
国語B	61.2%					○
数学A	66.1%	○				
数学B	46.9%	○				
理科	66.1%				○	

【国語A：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
話すこと・聞くこと	75.2%			○		
書くこと	73.9%					○
読むこと	76.7%					○
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.5%					○

【考察】

- 「話すこと・聞くこと」では、話合いの話題や方向を捉えるためのメモの取り方ができていません。授業の中で様々な形態の話合いを多く取り入れ、話題や方向を捉えるためのメモはどう取ればよいかを授業で考え、実践していきます。
- 「書くこと」では、段落相互の関係に着目したり、内容をわかりやすいものにするために再考したりする力が身についています。今後もわかりやすい文章を書くためにどうすべきかを考え、文の成分の構成を意識した文章を書かせていきます。
- 「読むこと」では、文学的文章を読む際に場面の展開や登場人物の描写に注目し、内容を捉えることができています。今後も描写に着目して登場人物の心情理解や物語の展開をとらえる授業を行っていきます。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、漢字、語句の理解力が高いです。一方で述語に対する主語とその文の成分の順序を構成する問題に落ち込みが見られます。文の成分について年間を通して復習すると同時に「書くこと」と結び付け主語と述語が明確な短い文章を書く指導を行っていきます。

【国語B：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
話すこと・聞くこと	76.6%					○
書くこと	31.3%		○			
読むこと	53.5%					○
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	49.2%					○

【考察】

- 目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く力が不足しています。複数の条件にあてはまる情報を選択し、それらを結び付けるように説明的文章や「書くこと」の授業を行っていきます。また、入試作文の対策としても全学年とも現在行っている新聞の要約を行っていくことで力がついてくるものと考えます。
- 登場人物の言動から物語の内容を捉えたり、捉えた内容を相手にわかりやすく説明したりすることができています。文学的文章の学習をはじめ、プレゼンテーションなどを行うことで相手に伝わりやすい表現をできるようにしていきます。
- 話の展開に注意して話を聞いたり、必要に応じて質問したりする力がついていません。今後もビブリオバトルなどを通して聞く力、話す力を身に付けていきます。

【数学A：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と式	71.1%	○				
図形	69.1%	○				
関数	55.5%	○				
資料の活用	63.5%	○				

【考察】

- 「数と式」では、計算についての技能は高いですが、等式の変形、等式の性質の知識について落ち込みが見られます。今後は、式の説明について、式をたてた人以外に説明させるなど学習内容の確認ができる授業を行っていきます。
- 「図形」では、図形の移動が定着していません。操作活動を取り入れたり、作図をさせたりすることで図形の知識を定着させていきます。
- 「関数」では、グラフの関係から対応の仕方については定着しています。今後は、座標上の点やグラフと式の間を確認しながら授業を行っていきます。
- 「資料の活用」では、多くの資料のデータを読み取り、中央値を求めることは出来ています。一方で、数学的用語を用いて説明する力が不足しています。いろいろな資料を用いてその分析と結果のまとめる活動を通して、表現や説明する力を身につけていきます。

【数学B：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と式	51.4%	○				
図形	46.7%	○				
関数	52.8%	○				
資料の活用	38.0%	○				

【考察】

- 「数と式」では、条件を踏まえて情報を読み取る力が不足しています。情報から関係性を見いだせるように表やグラフを活用して説明させるなど、授業の中に取り入れていきます。
- 「図形」では、図形の性質に新たに加えられた条件を持ったときの変化について根拠を持って考える力が不足しています。図形の性質を確認し、それを根拠にして筋道を立てて考える力を育てていきます。
- 「関数」では、事象を数学的に理解し、問題解決の方法を数学的に説明できていません。様々な事象から、その変化について式や言葉で表現し、課題解決できるように指導していきます。
- 「資料の活用」では、与えられた情報から必要な情報を読み取る力が不足しています。さまざまな資料を分析し、必要な情報を探り出して根拠を持って説明できる力を育てていきます。

【理科：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
物理的領域	74.4%					○
化学的領域	65.0%					○
生物的領域	72.5%			○		
地学的領域	57.8%	○				

【考 察】

- 「天気の特徴」において、風向の観測方法や記録の仕方に関する知識が不足しています。基本的な記号をもう一度復習し、現在の天気や風向等を記号で表す学習をくり返すことで、知識の定着を図っていきます。
- 「神経のはたらき」では、刺激を受け取ってから行動するまでの経路やその基本的な知識が身につけていません。さまざまな運動を例に挙げ、刺激と神経系の関連について整理し、一連の流れを言葉で表現できるように指導していきます。
- 「化学変化」において、反応前後の物質の性質については理解できているものの、反応を化学式を使って表すことに苦手意識を感じている生徒が多く見られます。実験前後に必ず、実験の化学反応式を書く習慣を身に付けることで、化学式への苦手意識の克服を図っていきます。